

委員会報告

第10回アジア土木技術国際会議(CECAR10) およびアジア土木学協会連合協議会(ACECC)第49回理事会(韓国・済州)参加報告

ACECC担当委員会 幹事長

井上雅志(株)エイト日本技術開発

概要

ACECC(The Asian Civil Engineering Coordinating Council)は、アジア地域の持続可能な社会資本の整備と発展とを目的として1999年9月に設立された組織であり、JSCEはその主要メンバーの一つである。現在は加盟学会が17団体で、土木関連学協会の協力により学術・技術の促進に向けた諸活動を進めてきている。この度、2025年10月21日にACECCの最高議決機関である理事会(Executive Committee Meeting, ECM)および、同年10月22日〜24日に第10回アジア土木技術国際会議(CECAR10)が、いずれも韓国・済州島で開催された。ECMは年2回、CECARは3年に1回の頻度で開催されてい

る。各イベントのスケジュールは表1の通りである。本稿では、CECAR10および第49回ECMについて報告を行う。

CECAR10

ACECCが3年に1度開催する国際会議であるCECAR10は、10月22日〜24日に韓国・済州島で開催された。3日間の一般論文セッションで多数の論文が発表されたほか、各TCによるセッションが開催され、活発な発表と議論が行われた。また、学会会期中、池内会長がPlenary Sessionで講演を行ったほか、大会1日目の夜に行われたPresidential Meetingにおいて、全17加盟学会の学会長による署名の下、Jeju Declarationが採択された。Jeju Declarationの詳細についてはリンクをご参照いただきたい

(<https://acecc-world.org/>)。また、2日目のGala DinnerではACECC賞の授賞式が行われ、JSCEが推薦した下記の表彰が行われた。

- ・功績賞・阿部玲子氏(株)オリエンタルコンサルティンググローバル)
- ・プロジェクト賞・玉来ダム建設プロジェクト(大分県庁、大成・菅・友岡特定建設工事共同企業体、(株)建設技術研究所九州支社)
- ・若手技術者/研究者賞・山本憲二郎氏(東京大学/(株)Aster)

ACECC賞受賞ならびにJeju Declarationの詳細については、ACECC担当委員会のウェブサイト(<https://committeesjsce.jp/acecc/>)に掲載したプレスリリースをご参照いただきたい。

最終日には閉会式が行われ、今回のCECAR開催国である台湾のCICHE(中国土木水利工学会)へACECC旗が受け継がれた。CECAR11は、2028年に台湾で開催される予定となっている。

第49回ECM(理事会)

CECAR10に先立って10月21日に開催された理事会では、以下の通り、各委員会および理事会での議論と決議が行わ

表1 ECMおよびCECAR10のスケジュール

開催日	現地時間	イベント
10/21(火) 理事会(ECM)	8:00-9:00	財務委員会(Finance Committee Meeting, FCM)
	9:00-11:00	技術調整委員会 (Technical Coordination Committee Meeting, TCCM)
	13:00-15:00	企画委員会(Planning Committee Meeting, PCM)
	15:30-18:30	理事会(Executive Committee Meeting, ECM)
10/22(水) CECAR10 Day1	10:00-10:30	開会式(Opening Ceremony)
	10:30-18:15	発表セッション(Plenary Lecture / Concurrent Technical Session)
	18:30-20:00	会長懇談会(Presidential Meeting)及びJeju Declaration採択
10/23(木) CECAR10 Day2	9:00-18:15	発表セッション(Plenary Lecture / Concurrent Technical Session)
	18:30-20:30	晩餐会及びACECC賞授賞式 (Gala Dinner / ACECC Award Ceremony)
10/24(金) CECAR10 Day3	9:00-15:00	発表セッション(Plenary Lecture / Concurrent Technical Session)
	15:15-16:00	閉会式(Closing Ceremony)

れた。

(1) 技術調整委員会(Technical Coordination Committee Meeting, TCCM)

TCCMでは、現在活動中の14の技術委員会(Technical Committee, TC)の活動報告が行われた。JSCEがChairを務めるTC21(Transdisciplinary Approach for Building Societal Resilience



写真1 CECAR10における池内会長のPlenary Session (写真: CECAR10事務局)

to Disasters)については、新たに1年間のTCC活動延長申請について、全会一致で承認された。また、同様にJSC EがChairを務めるTCC28 (Application of Monitoring Technology for Infrastructure Maintenance)についても、インフラメンテナンスに関するガイドラインの作成が完成に近づいていることなどが報告された。また、JSC EがCo-chairを務めるTCC30 (Digital Technologies for Smart Construction)・TCC33 (Advancing Artificial Intelligence Education in Civil Engineering)についても活発な活動が報告された。

また、先般ネパールで発生したデモに伴い、火炎瓶の投下などによる火災で被害を受けた建築物やインフラに対する診



写真2 Presidential Meetingで採択されたJeju Declaration (写真: CECAR10事務局)

断 (Rapid Assessment) や復旧技術支援について、NEA (ネパール技術者協会) がACECCに支援を要請した。これを受け、ACECCはオンラインセミナーなどを通じて各学会から技術紹介と支援を行うことを決定した。

(2) 企画委員会 (Planning Committee Meeting, PCM)

PCMでは、CECARにおいて各学会が負担する協賛金 (Corporate Contribution) に関して議論が行われ、次回のCECAR11 (2028年台湾) については減額、さらにそれ以降については廃止する方向となった。また、加盟各学協会の若手研究者・技術者が集まるFuture Leaders Forum (FLF) について、月例で実施されているセミナーの開催報告の



写真3 ACECC賞授賞式の集合写真 (写真: CECAR10事務局)

ほか、ACECC賞の規約改正などの議論が行われた。

(3) 理事会 (Executive Committee Meeting, ECM)

ECMでは、TCCM、PCMでの決定事項が了承された。また、今後のECMの開催予定も協議され、第50回ECMはネパール・カトマンズで2026年4月22〜24日に、第51回ECMは2026年秋に、それぞれ開催されることが決定された。

今後に向けて

CECAR10の全参加者543名のうち、JSC Eからは69名が現地参加した (速報値) が、これは各学会のうち、主催の韓国土木学会に次ぐ2番目に多い参加



写真4 CECAR10前日に開催されたACECC理事会の様子 (写真: CECAR10事務局)

者だった。3年前にインド・ゴアで開催されたCECAR9ではコロナ禍の影響もあり現地参加者が限られていたが、今回のCECAR10ではより多くの土木学会員が参加し、理事会も含めた4日間、アジア各国・地域の関係者と広く交流し、活発な議論が行われたことを大変喜ばしく思う。なお、CECAR10ならびに理事会における若手学会員の参加体験記を国際センター通信のNo.148に掲載しているので、ぜひご覧いただきたい。

引き続き今後ともACECCおよび加盟学会と協力しながら、多くの土木学会員が海外で交流・活躍するきっかけを提供すると共に、アジアにおける土木分野の発展に貢献すべく活動を続けて参りたい。